

密厳院発露懺悔文

われらさんげ　むし　うのか
我等懺悔す　無始より来た

せむじゆせむじ　せむじ　ごせむじ　うへ
妄想に纏われて　衆罪を造る

しんく　い　うじゆ　ごね　てんざう
身口意の業　常に顛倒して

あぢま　むじゆふぜん　うじゆ　あか
誤って　無量不善の業を犯す

ちたばい　おけんりん　せ　せ　うぢぢ
珍財を憒吝して　施を行ぜず

うん　まか　ほうじゆ　かい　じ
意に任せて　放逸にして　戒を持たず

しばしばんこ　お　ごんくへ
屢々忿怒を起して　忍辱ならず

おお　けだい　しぢゆ　しやうじん
多く懈怠を生じて　精進ならず

しんい　さんぢん　みぜん
心意　散乱して　坐禅せず

ごんご　いほこ　え　うせ
実相に　違背して　慧を修せず

つね　かく　じゆ　るくべ　ぎやう　たい
恒に　是の如くの六度の行を退して

かえつ　るでんさんず　うじゆ　じく
還て　流転三途の業を作る

な　びく　か　がらん　けが
名を比丘に仮して　伽藍を穢し

かたち　しやま　ひ　しんせ　う
形を沙門に比して　信施を受く

う　うん　かごぼん　わす　じ
受くる所の戒品は　忘れて持たず

学がくすす可すきへ律り儀ちはぎ 廃はいしてし好このむのことな無なし

諸しよ仏ぶつのの厭えん患のしたしたももつつ所ところをを慚はじまずず 菩ぼ薩だつのの苦く惱のうするする所ところをを畏おそれおそずず

遊ゆ戯ぎしし笑ご語りしてして 徒いたにに年ねんを送おくりり

諂てん詐のう偽そしてして 空むなしくひ口すをを過すぐぐ

善ぜん友ゆうにに随したがわわずずしてして 癡ち人にんにに親したしみしみ

善ぜん根こんをを勤こまめめずずしてして 悪あく行ぎやうをを営いむむ

利り養やうをを得えんとと欲ほつしてしてはは 自じ徳とくをを讚さんじじ

勝しょう徳とくのの者ものを見みててはは 嫉しつ妬とをを懷いだくく

卑ひ賤せんのの人ひとを見みててはは 僞ぎ慢まんをを生しじじ

富ぶ饒じょうのの所ところをを聞きいていてはは 希け望ぼうをを起おここすす

貧びん乏ぼうのの類るいをを聞きいていてはは 常じょうにに厭あ離りすす

故こららにに殺ころしし 誤あやままりりてて殺ころすす有う情じやうのの命いのち

願あわわにに取とりり 密ひそかかにに取とるる他た人にんのの財ざい

触ふれれててもも触ふれれずずしてしてもも犯おかすす 非ひ梵ぼんのの行ぎやう

口く四し意い三さん 互たがいにに相そ続ぞくしてして

仏ほとけをを觀かん念ねんするする時ときはは攀へん縁ねんをを発おこしし 經きやうをを誦とく誦とくするする時ときはは又また句ごをを錯あやままるる

若し善根を作せば 有相に住し

還て 輪廻生死の因と成る

行住坐臥 知ると知らざると 犯す所の是の如くの無量の罪

今三宝に対して皆な発露したてまつる

慈悲哀慈して 消除せしめたまえ

皆な 悉く発露し 尽く懺悔したてまつる

乃至 法界の諸の衆生 二業所作の是の凡々の罪

我皆な相代わって 尽く懺悔したてまつる

更に亦 其の報を受け令められ